

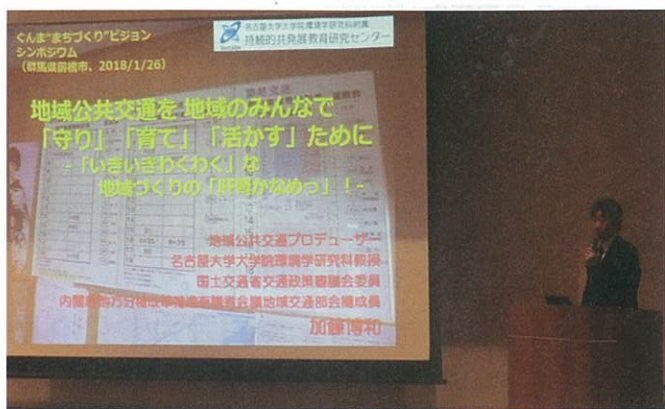


ぐんま“まちづくり”ビジョン シンポジウム

群馬県 県土整備部 都市計画課

群馬県都市計画協会と群馬県共催による「ぐんま“まちづくり”ビジョン シンポジウム」が、平成30年1月26日(金)に群馬県社会福祉総合センター 8階 大ホールで開催されました。

基調講演「地域公共交通を地域のみんなで「守り」「育て」「活かす」ために」



加藤教授による基調講演

基調講演では、「地域公共交通を地域のみんなで「守り」「育て」「活かす」ために」と題して、名古屋大学大学院環境学研究科 加藤 博和 教授にご講演いただきました。

地域公共交通の維持改善で重要なのは、利用者・事業者・行政の皆が各々に当事者意識を持って取り組むことであるということでした。説明いただいた事例では、路線の大幅撤退を表明していたバス事業者が期間を限定した「料金上限200円」の実験を実施してみたところ、利用者が増加したことで地域をよくできる公共交通の醍醐味を実感し、その後も主体的に事業に取り組んでいる地域があると紹介され、興味を引かれました。

また、従来の公共交通と地域の関係は、利用者から公共交通を走らせて欲しいという要望によって、行政が費用負担、企画・運営を行う要望型でしたが、公共交通が活性化されている地域は、利用者が公共交通を走らせたという自主的な考えで企画書を作成し、行政と協力して運営を行っているとのことでした。

公共交通を活性化させるには、利用者と事業者が自ら公共交通の必要性を考え、地域が主役となって活動していく必要があると同時に、その活動を調整・下支えできるように私たち行政の役割も重要であると改めて実感しました。加藤教授、貴重なご講演ありがとうございました。

事例発表「ぐんま“まちづくり”ビジョン 館林市アクションプログラム」

館林市が平成29年3月に策定した「館林市アクションプログラム」について館林市都市計画課の吉村主任による事例発表が行われました。館林市アクションプログラムは、平成24年に群馬県が策定した「ぐんま“まちづくり”ビジョン」に基づく館林市版の実行計画です。館林市アクションプログラムは、都市計画を含めた土木分野だけではなく、福祉や商業関係のソフト施策を盛り込んだ幅広い分野から成り立っている計画です。



館林市による事例発表

事例発表「群馬県交通まちづくり戦略について」

「群馬県交通まちづくり戦略」について群馬県都市計画課の中川補佐による事例発表が行われました。「群馬県交通まちづくり戦略」とは、「ぐんま“まちづくり”ビジョン」の理念を実現するため、「誰を」対象として、「いつ」「どこで」「どのような」取組を「誰が」行うべきかを明確にした実行計画です。平成27年～平成28年に実施したパーソントリップ調査から得られたデータを分析して策定されています。自動車社会である群馬県から、自動車以外の移動手段も選択できる社会に変遷させるための計画となっています。

